

「戦時下に受けた教育と戦争体験」 蘆田央子氏

大正 13(1924)年、東京市麹町区飯田町に生まれた蘆田さんは、満州事変が勃発した昭和 6(1931)年に小学校、日中戦争が勃発した昭和 12(1937)年に高等女学校に入学されました。戦時下に受けた教育や戦時中の様々な体験を語っていただきました。

高等女学校 5 年生の昭和 16(1941)年 12 月 8 日、太平洋戦争が始まる。千人針の腹帯づくりに協力し、授業をさいて、救急訓練や防火訓練が行われ「大日本帝国」のためという気持ちが国内外の情報とともに高まった。昭和 15(1940)年の全国女学校合唱コンクールの課題曲が「婦人従軍歌」となり、悲惨な情景の歌詞を美しく歌うことに専念した。昭和 17(1942)年、日本女子大学校に入学。昭和 18(1943)年、学徒出陣で兄が千葉県佐倉の部隊に入隊した。昭和 19(1944)年、勤労学徒令が発令され、海軍衣料廠で軍服のボタン付けに従事した。この年の 11 月、B29 による東京空襲があった。東京九段下近くの生家周辺は家屋の強制疎開により、ほこりがたちこめ、ぜんそくぎみの父は発作のため突然他界した。国民学校 6 年生だった一番年下の妹は父の亡くなった翌朝、学童集団疎開団として寂しそうな笑みを残し、河口湖畔へ向かって出発した。九段下に投下された焼夷弾の延焼で家は全焼し、長野県に逃れた。昭和 20(1945)年 7 月、軽井沢の大学の寮で開墾生活に加わる。きびしい食糧事情の中、耐えて鍬をふるった。8 月 15 日、学生全員が整列して終戦の詔勅を聞いた。私は、学寮内の小高い丘に登り、天皇陛下と父上に「申しわけありませんでした」と紙に記して気持ちを静めた。多くの日本人が、二重橋の前で膝をついて頭をさげた。そのように導いた力、それは何だったのか。

(講演の内容は、「資料館だより」から転載しました。)